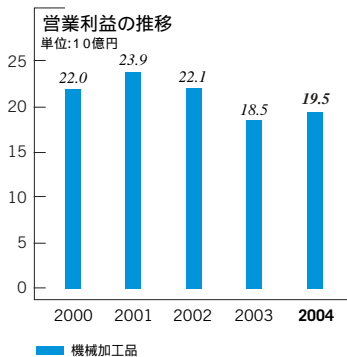
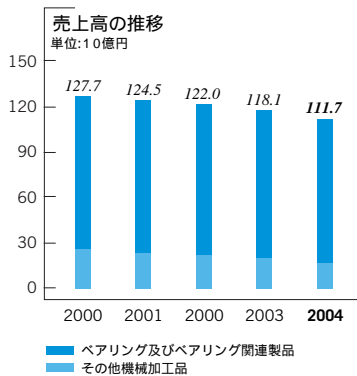
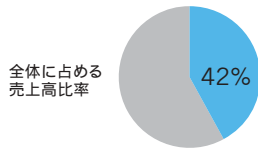


セグメント情報

事業の種類別業績

機械加工品事業



連結売上高の42%を占める機械加工品事業は、ボールベアリング、ロッドエンド&スフェリカルベアリング、ピボットアッセンブリーなどの「ベアリング及びベアリング関連製品」、特殊機器、ネジ類などの「その他機械加工品」に分けられます。

主要製品群、市場と市場での位置付け

製品	主要市場	世界市場占有率 (数量ベース、当社推定)
ベアリング及びベアリング関連製品		
ボールベアリング	各種小型モーター、家電、 情報通信機器、自動車	1位 60% (シェアはミニチュア・小径のみ)
ロッドエンド&スフェリカルベアリング	航空機、産業機械	1位 50-60%
ピボットアッセンブリー	HDD	1位 70%
その他機械加工品		
特殊機器、ネジ	航空機、自動車、産業機械	

当期のハイライト

ボールベアリングの事業規模の拡大追求と徹底的な競争力強化を柱とする「月産1億8,000万個体制の構築」を実施。

タイムリーな新製品の導入により、ピボットアッセンブリーの市場占有率が約70%を維持。

当期の市場環境

設備投資の回復を背景に世界経済が回復。

PCやHDD、情報通信機器、家電、産業機械業界からの需要が順調に拡大。

顧客からの継続的な単価引き下げ圧力の影響を受けて単価が下落。

航空機業界からの需要は引き続き低迷。

重点課題と今後の方針

予想されるボールベアリング市場の変化に対応して新規分野への対応を加速し、競争力をさらに強化する。

業績及び事業詳細

当期の機械加工品事業の売上高は1,116億9,300万円と前期比64億2,500万円(5.4%)の減収となりました。営業利益は195億500万円と前期比9億8,500万円(5.3%)の増加となり、売上高営業利益率(売上高は外部顧客に対する売上高)は17.5%と前期から1.8ポイント改善しました。

主要製品

ベアリング及びベアリング関連製品
ミニチュア・ボールベアリング
小径ボールベアリング
シャフト一体型ボールベアリング
ロッドエンドベアリング
スフェリカルベアリング
ローラーベアリング
ジャーナルベアリング
ピボットアッセンブリー
テープガイド

その他機械加工品
航空機用 / 自動車用ネジ類
特殊機器
電磁クラッチ / 電磁ブレーキ

ベアリング及びベアリング関連製品事業

ベアリング及びベアリング関連製品事業の売上高は前期比33億3,400万円(3.4%)減少し、946億400万円となりました。

ボールベアリング

当期も引き続き、ボールベアリングの事業規模の拡大追求と徹底的なコスト競争力強化を柱とする「月産1億8,000万個体制の構築」を実施しました。世界の景気の回復を受けて需要が順調に拡大に向かったこともあり、期末末までには1億7,000万個を大きく上回る生産・販売(社内使用を含む)となりました。また、期を通して大幅なコスト低減を実現しました。その結果、ボールベアリングの営業利益及び利益率は向上し、機械加工品事業全体の収益の牽引役となりました。

今後のボールベアリングの市場については、需要は従来よりも加速して拡大すると予想しております。複写機のデジタル化やカラー化、ブロードバンドの普及に伴うデジタル機器の普及、並びに、中国製家電などの需要増に押されて市場が急速に拡大しつつあること、また、ごく最近ではデジタル家電の普及や家電の高性能化などにより、新しい需要が生まれてきているからです。一方で、需要の拡大に合わせて、今後は競争が激化することも予想されます。

来期は、このようなボールベアリング市場の変化に対応して新規分野への製品投入を加速し、競争力をさらに強化します。具体的には、販売目標を半年前倒しして、来期半ばまでに月1億8,000万個の水準達成と定着を目指します。また、総合力の強化のために、開発営業の強化、中華圏での拡販、コスト競争力の強化を実施します。

ロッドエンド&スフェリカル・ベアリング

主要マーケットである航空機業界では、航空業界の低迷を受けて当期も需要不振が続きました。しかし、民間航空機大手2社のボーイングとエアバスが2005年から増産に転じる方向であり、来期は当社製品に対する需要も期後半から増加に転じると期待しています。また、2005年2月に初飛行が予定されているエアバスの次世代機種 A380 向けに製品開発を進め、ビジネスの取り込みをはかった結果、当社製品が対象となる分野で高シェアの受注を獲得することができました。

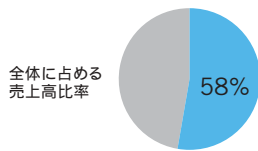
ピボットアッセンブリー

拡大するHDDの需要を取り込むため、ピボットアッセンブリーの新製品導入とコスト競争力の強化に努めた結果、当期はシェアが安定的に7割を維持し、販売数量は前期から2割以上も増加しました。当期はピボットアッセンブリーの収益性の改善をミネベアの重点施策の一つとしましたが、ボールベアリングとのシナジー効果の面で成果が現れました。来期は、需要が拡大する2.5インチ、1.8インチ、1インチHDD用の増産をはかります。

その他機械加工品事業

その他機械加工品事業の売上高は前期比30億9,100万円(15.3%)減少し、170億8,900万円となりました。2003年7月に米国の一部事業を売却したことにより売上高が前期比約10億円減少したことに加えて、需要減少により特殊機器製品の売上高が減少しました。

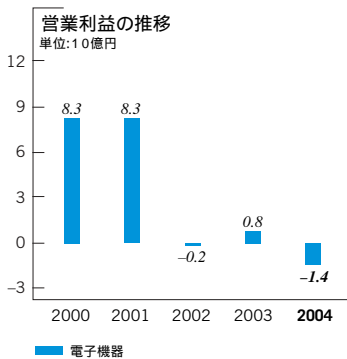
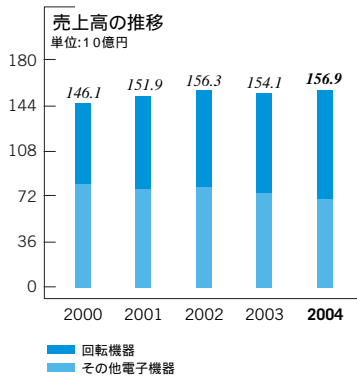
電子機器事業



連結売上高の58%を占める電子機器事業は、HDD用スピンドルモーター、ファンモーター、ステッピングモーターを中心とする「回転機器」、キーボード、スピーカー、ライティングデバイスなどの「その他電子機器」に分けられます。

主要製品群、市場と市場での位置付け

製品	主要市場	世界市場占有率 (数量ベース、当社推定)
回転機器		
HDD用スピンドルモーター	HDD	2位 20-25%
ファンモーター	PC、OA 機器、その他情報通信機器、ゲーム機、家電	2位 15-20%
ステッピングモーター	OA 機器、光磁気ディスクドライブ	2位 15-20%
その他電子機器		
キーボード	PC	3位 20%
エレクトロデバイス	FDDヘッド及びMODはPC、ライティングデバイスは携帯電話	
パワーエレクトロニクス	電源等は事業終了	
スピーカー	PC、家電、自動車	
計測機器	産業機械、自動車	



当期のハイライト

- 2003年8月に松下電器産業株式会社と情報モーターの合併事業の設立に合意。2004年4月1日から業務開始。
- HDD用スピンドルモーターのシェアを拡大、売上高を拡大。
- 2003年8月に中国のキーボード新工場が稼働開始。
- ライティングデバイス事業が軌道に乗る。

当期の市場環境

- 設備投資の回復を背景に世界経済が回復。
- PCやHDD、情報通信機器、家電業界からの需要が順調に拡大。
- 顧客からの継続的な単価引き下げ圧力と中国を中心とするアジア地域での生産拡大に合わせて価格競争が激化。

重点課題と今後の方針

- ミネベア・松下モータ社を軌道に乗せる。
- HDD用スピンドルモーターの早期の新製品投入と採算性の改善を目指す。
- 各電子機器事業の抜本的な収益性の改善をはかる。
- ディスプレイ周辺部品の事業拡大をはかる。

業績及び事業詳細

当期の電子機器事業の売上高は1,568億8,100万円と前期比27億9,700万円(1.8%)の増加となりました。電子機器事業は14億100万円の営業損失を計上しました。

主要製品

回転機器

ハードディスクドライブ(HDD)用

スピンドルモーター

ファンモーター

ハイブリッド型ステッピングモーター

PMステッピングモーター

DCブラシレスモーター

電動パワーステアリング用

DCブラシレスモーター

VRレゾルバ

その他電子機器

パソコン(PC)用キーボード

スピーカー

エレクトロデバイス製品

フロッピーディスクドライブ(FDD)

用磁気ヘッド、光磁気ディスク

ドライブ(MOD)、液晶用ライティング

デバイス

パワーエレクトロニクス製品

バックライトインバーター

計測機器

ひずみゲージ、ロードセル

回転機器事業

回転機器事業の売上高は前期比75億5,300万円(9.5%)増加し、867億4,100万円となりました。

HDD用スピンドルモーター

需要増加とシェア拡大により、当期のHDD用スピンドルモーターの売上高は前期比大幅に増加しました。これは、当社売上高の9割を占める3.5インチHDDの需要がデスクトップPC向けとデジタル家電向けに伸長したことによるものですが、今後も高容量が必要とされるデスクトップPC、デジタル家電、映像機器向けなどに需要は広がると見ております。一方、市場が加速的に拡大している2.5インチ以下のHDD用FDBモーターへの参入が不可欠です。従来から研究開発を進めてきた製品に、2004年4月に発表した新製品を加えて、あらゆる角度から参入を目指しています。

また、当期は、HDD用スピンドルモーター事業の収益性の改善が大きな課題として残りしました。競争激化により3.5インチHDD用スピンドルモーターの単価は急速に下落し、単価下落にコスト削減が追い付かない状況が続きました。コストの抜本的な見直しをはかると同時に、高いコスト競争力を有する新製品の拡販を進め、来期中に業績改善をはかる計画です。

ファンモーター

ファンモーターの売上高は、販売数量を拡大しましたが、円高による影響と単価下落に相殺されて前期比横這いにとどまりました。当期はPC・サーバー向けに拡販を実施し売上を拡大しましたが、後半のゲーム機向け等の需要減速の影響を受けて伸び悩みました。

ミネベア・松下モータ社の事業として、ファンモーターは製品群が拡充されました。具体的には、従来のボールベアリングタイプのみから、スリーブベアリングタイプが製品群に加わりました。さらに、当社では比較的注力していなかった家電事業向けビジネスも加わりました。広がった事業領域をベースに積極的な事業展開をはかって参ります。

ステッピングモーター

ステッピングモーターの売上高は、販売数量の増加が円高による影響と単価下落に相殺され、前期比若干減少しました。ハイブリッドタイプは、OA機器や産業機械向けに新製品の拡販が順調に進みました。PMタイプは、光ディスクドライブ向けに拡販を実施しましたが、アジア勢を中心とする単価競争が激化しています。

ステッピングモーターにつきましても、ミネベア・松下モータ社の事業として製品群が強化されました。具体例としては、小型PMモーターの分野が加わったことです。ファンモーターと同様、積極的な事業展開をはかります。

その他電子機器事業

その他電子機器事業の売上高は前期比47億5,600万円(6.4%)減少し、701億4,100万円となりました。2002年11月に終了したFDD事業と2004年3月に終了した電源事業等を除きますと、前期のその他電子機器事業の売上高は610億円、当期は621億円となり、事業撤退による影響が見られました。

キーボード

2003年8月に中国上海近郊の新工場が稼働し、生産は順調に軌道に乗りました。しかし、当初の予定より新工場の開始が遅れたことや主要顧客先の在庫調整の影響を受け、当期は売上高が大幅に減少しました。新工場の初期費用の負担も加わって厳しい収益状況となっています。来期下期の黒字転換を目指し、タイからの早期生産移管を進めています。

エレクトロデバイス

中小型カラー液晶用フロントライト・バックライトから構成されるライティングデバイス事業が順調に軌道に乗ってきました。大手顧客先への拡販が進み、当期売上高は前期比3.5倍の90億円近くまで増えました。

現在、携帯電話の市場は動画対応にシフトしています。即ち、画面サイズは大きく、かつ、さらに高輝度、高精細ということになります。ミネベアの製品開発力と超精密機械加工技術における優位性を活用して、市場から一歩進んだ製品を引き続き提供していきます。

バックライトは、MOD事業などを通して長年蓄積してきた光学関連技術を応用した製品です。この光学関連技術に電子回路技術を合わせて、ディスプレイ周りのR&D活動を進めてきましたが、今後、バックライトインバーターを次のディスプレイ周辺部品事業の柱として拡大する計画です。従来はPC用液晶ディスプレイやスキャナー・コピーマシンを中心に事業を展開してきましたが、大型TV向けに参入する目処がつかしました。

FDD用磁気ヘッドとMODにつきましては、最終需要の縮小傾向が続いています。

パワーエレクトロニクス

当期末、電源事業等を終了しました。

スピーカー

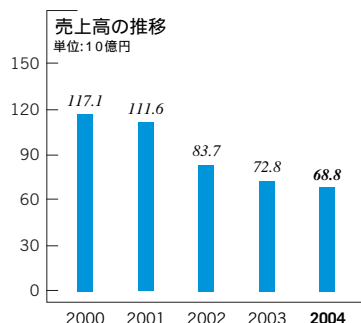
主要顧客市場であるPCやオーディオ、自動車向けに拡販を実施しましたが、スピーカーの売上高は前期比微増にとどまりました。

計測機器

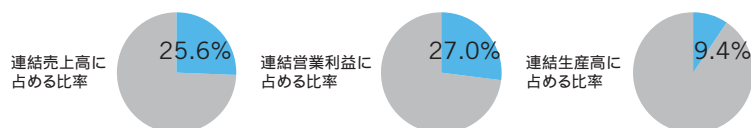
射出成形機を中心とする産業機械の需要増加などにより、計測機器の売上高は前期から大幅に増加しました。計測機器は長期的に高い成長が見込まれ、新製品の市場投入や中国での拡販など積極的な事業を展開しています。

所在地別業績

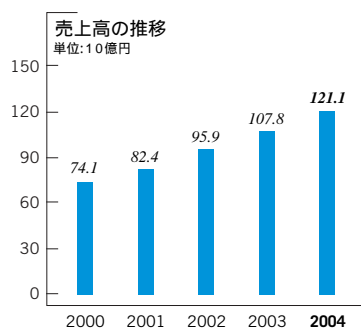
日本



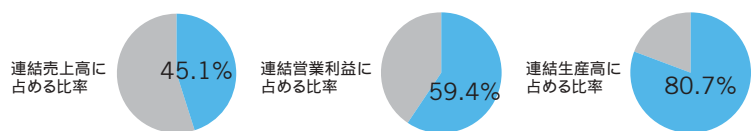
日本地域は、景気の着実な回復が見られましたが、多くの顧客が生産品目を海外の子会社へ移管するなどの影響が加わり、売上高は687億6,000万円と前期比39億9,400万円(5.5%)減少しました。しかし、営業利益は円高による製品輸入仕入価格の低下等もあり、48億8,300万円と前期比17億5,000百万円(55.9%)の増加となりました。



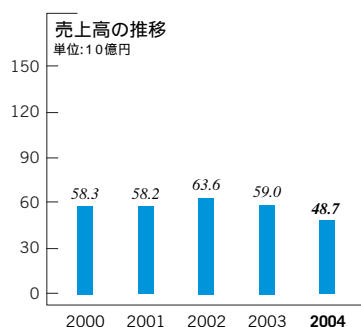
アジア(日本を除く)



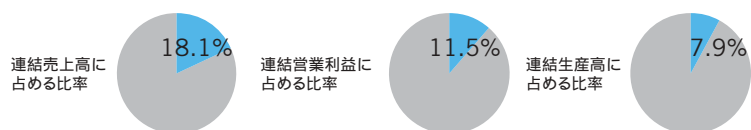
アジア地域は、日本、欧米のPCや家電メーカー等の生産拠点として重要な地域です。情報通信機器関連業界の需要回復に伴い、販売は堅調に推移しましたが、当地域の生産拡大に合わせて価格競争も激化しています。この結果、売上高は円高にもかかわらず1,210億7,200万円と前期比132億8,300万円(12.3%)増加しましたが、営業利益は107億6,300万円と16億5,500万円(13.3%)の減少となりました。



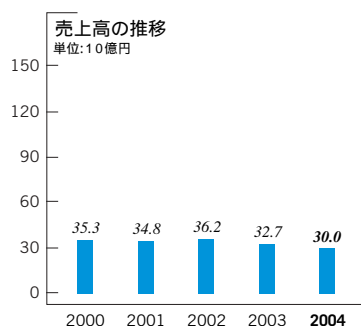
北米・南米



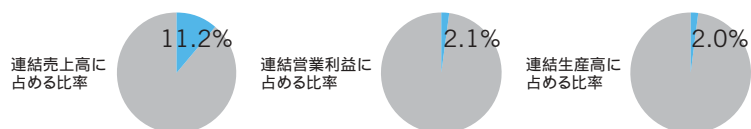
北米・南米地域は、顧客のアジアへの生産移管が進むなか、キーボード、スピーカー、及びファンモーター等の電子機器の販売が総じて低迷したことに加え、ロッドエンドベアリングの主要市場である民間航空機業界からの需要回復も遅れました。この結果、売上高は487億2,600万円と円高の影響もあり、前期比102億7,100万円(17.4%)減少しましたが、営業利益は20億8,400万円と前期比2億2,600万円(12.2%)の増加となりました。



欧州



欧州地域は、景気のゆるやかな回復傾向が見られるなかで、ボールベアリング及びロッドエンドベアリング等が堅調に推移しましたが、キーボード等電子機器の不振があり、ユーロ通貨に対し円安にもかかわらず、売上高は300億1,600万円、営業利益は3億7,400万円と、前期と比べ、それぞれ26億4,400万円(8.1%)の減少、15億6,800万円(80.7%)の減少となりました。



(注)売上高：外部顧客に対する売上高